

# 2012-2013年度 IM第8組報告

大阪天王寺ロータリークラブ会長 **河野 利紘**  
IM実行委員長 **松井 隆雄**

テーマ:「青少年の健全な心と体の育成を」～ ロータリークラブ・ロータリアンは何をすべきか、何ができるか ～

ホストクラブ:大阪天王寺ロータリークラブ

場 所:大阪国際交流センター2階小ホール

月 日:2013年4月13日(土)

参加登録:300名

出席者数:138名(講師含む)

参加クラブ(IM第8組):大阪平野ロータリークラブ、大阪イブニングロータリークラブ、大阪城南ロータリークラブ、大阪  
咲洲ロータリークラブ、大阪帝塚山ロータリークラブ、大阪東南ロータリークラブ、大阪アーバン  
ロータリークラブ、大阪天王寺ロータリークラブ

IM当日の早朝、淡路島地震に見舞われ開会が危ぶまれる一幕もありましたが、岡部泰鑑PGはじめ多数のご来賓の皆様方とIM第8組の多数のロータリアンのご参加を頂き、予定どおり無事終えることができましたことを厚く御礼申し上げます。有難うございました。

主催者である高島凱夫Gが健全な心とからだを持った青少年の育成が今後の日本の発展、世界平和のために必要であると考えられ、本年度の地区の方針・スローガンを「育もう未来の力を～飛躍～」に、「健全な青少年の育成」をKeywordの一つにされました。それを受け検討を重ねメインテーマを「青少年の健全な心と体の育成を」と致しました。

メインテーマを設定した時には考えてもいませんでしたが、昨年末、大阪市立桜宮高等学校のバスケット部主将が顧問教諭から体罰を受けた後自殺したことに端を発して大きな社会問題となり、「指導と体罰」「スポーツと体罰」が是か否かと、マスコミで大きく取り上げられ全面否定から全面肯定論まで議論百出の感がありました。またスポーツも中学・高校でのクラブ活動とプロ・アマチュアのスポーツでの違いもあります。報道機関(産経新聞)の世論調査によると学校の教師やスポーツ指導者による体罰に関し、「場合によっては仕方がない」とする回答が「一切認めるべきでない」とする意見を上回ったと報道されました。



「青少年の健全な心と体の育成のため体罰は必要か」について、講師にお迎えしたウルフの愛称で有名な昭和最後の大横綱、第58代横綱 千代の富士(現九重親方)九重貢氏にはプロの立場から「青少年の精神と忍耐を養う相撲道」と題し、少し趣向を凝らしてアナウンサーからのインタビュー・対談方式にて講演頂きました。弟子の善し悪しはやる気があって、師匠や先輩力士の言うことを素直に受け入れ実践する子供は伸びるが、そうでない子供は挫折するという、その子の親を見れば子供が伸びるかどうか分かるということユーモアたっぷりに話して頂きました。自ら厳しい稽古に耐え、頂点を極めた大横綱は体罰と受け止めたことがなかったようであります。

その後「青少年問題のいま、むかし、さき」をテーマにしたパネルディスカッションでは、異色の心理分析者 深田昭一先生をメインパネリストにして、現役の高等学校の先生お二人とロータリアン二人に加わってもらいました。立場を異にしたパネリストの討論を通じ、サブテーマである「ロータリークラブ、ロータリアンは何をすべきか、何ができるか」を知る手がかりが得られる興味深いものであります。

閉会式後の懇親会では、パネリストを交え近隣クラブ会員相互の親睦と友情を深めることができIMの目標は達成できたと喜んでおります。